

長崎ブレークスルーを通じ 長崎に突破力（ブレークスルー）を！



長崎大学国際教育リエゾン機構

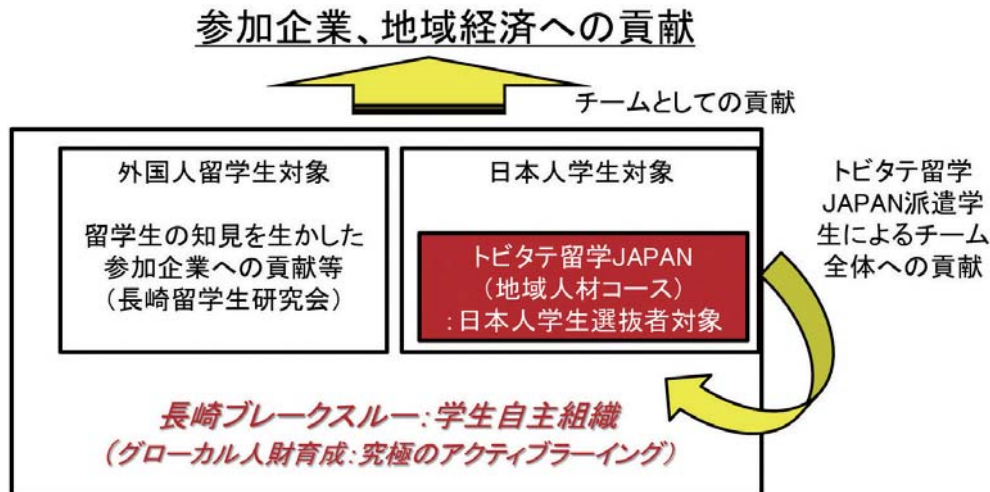
教授 松島大輔

1973年 石川県金沢市生
 1993年 4月～1998年 3月 東京大学・経済学士及び経営学士（特選論文受賞）
 2003年 9月～2005年 6月 ハーバード大学・大学院（修士）
 1998年 4月～2015年 9月 通商産業省
 2003年 9月～2005年 6月 人事院長期人事研修：ハーバード大学大学院修士課程（修了）
 2006年10月～2010年 6月 日本貿易振興機構ニューデリー・シニアディレクター兼南アジア知的財産部長
 2011年 9月～2015年 9月 タイ王国政府国家経済社会開発委員会政策顧問
 2014年10月～ タイ王国政府工業省政策顧問
 2015年10月～現在 長崎大学教授
 タイ王国公益法人お互いフォーラム副理事長兼共同代表

現下の厳しい経済環境にある長崎の復活、長崎経済の将来を誰に託し、誰が実践すべきか？ — 若い世代、大学生に託してみてもどうか — これが「長崎ブレークスルー」の背景にある切実な願いです。賛同いただいた長崎県下のエクセレント・カンパニー、特にベ

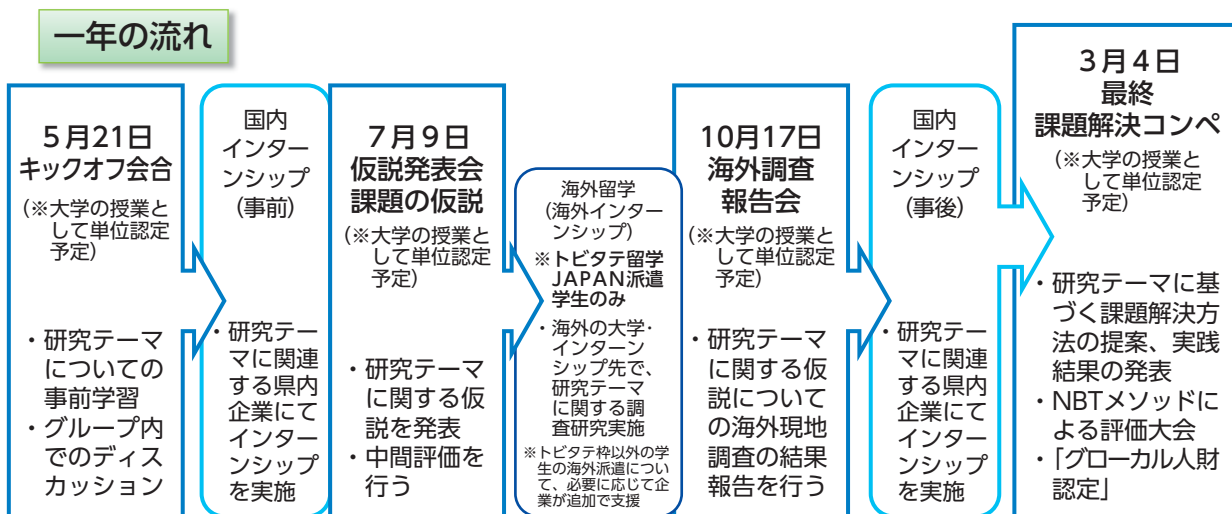
ンチャー企業や、大手企業の新規事業部から提出頂いた海外展開事業の課題に対し、日本人学生と留学生がチームになってそれぞれの企業にインターンシップに入り解決していくという産学連携プラットフォームです。

図1：「長崎ブレークスルー」の仕組み



出典：著者作成

図2：「長崎ブレイクスルー」の1年間にわたる活動の流れ



出典：著者作成

ひとつのサイクルを1年間で回し、毎年、各企業からの課題を解決していきます。年間4回の発表を通じ、学生を通じた企業理解、強み分析、海外情報収集、そして、最終的な成果報告を行います。今年も既に、5月21日にキックオフ会合が開かれ、100名近い学生の登録がありました。歴史の表舞台であった嘗ての幕末長崎の熱気が再生され、その熱い思いは、9つのプロジェクトを選択し、同志とともに議論を重ねるにつれ、最高潮に達しました。

参加企業が抱える海外展開の課題を、学生が解決する。一見して本当に効果がある提案になるのか？という疑問が湧くかもしれません。「長崎ブレイクスルー」では、一定の成果が上がる仕組みを実現するための具体的な制度設計を行っており、幾つか特徴があります。

まず最も大きな特徴は、「軒先ベンチャー」

という発想です。結果指向型のプロジェクトであり、単なる思いつきのプレゼン大会ではありません。むしろ事業化に肉薄する出口に着目して、各チームで競争し、協創して結果を出していこうという点が特徴です。このためには、学生の思いつきではなく、まさに参加企業の求める海外展開を通じて、学生と企業が協創して案件形成を進めるという方法です。

二点目の特徴は、毎年、対象国に実際に学生を派遣したり、その地域と交流を図ることで、現地・現場主義に徹すること。初年度に当たる今年、2017年度は、インド、ASEAN、インバウンド（中国・韓国）、という3つの分野に限定しています。幸い、著者はこの地域に10年近く駐在し、これまでナショナルプロジェクトから、ベンチャーの立ち上げまで様々な事業を支援しており、各国の政府、財界と現在もビジネスを通じてつながっております。これら経験やノウハウ、人脈のすべて、

長崎ブレイクスルーを通じ長崎に突破力（ブレイクスルー）を！

新興アジアの奥義を学生に伝授しております。

また、「長崎ブレイクスルー」に参加する一部の日本人学生を実際に海外現地に派遣し、現地の大学や国際機関、相手国企業等にインターンシップをする傍ら、各企業の課題解決に向けた調査を実施するという仕掛けを用意しております。

「百聞は一見に如かず」。例えば、参加企業のひとつ、ナカムラ消防化学がASEAN（東南アジア）で消防自動車、防火設備の海外事業展開を検討しておられますが、皆さんは日本の最新鋭の消防自動車を持っていけば解決すると思われるのでしょうか？ - 答えは「否」です。日本以外の新興国は、貯水槽などの防火設備はおろか、上下水道などの関連インフラが整っているところはほとんどありません。つまり、防火に係る水インフラの完備を前提

とした日本の消防自動車をそのまま持ち込んでも全くビジネスにはなりません。同社が誇る技術はその先。化学薬品による鎮火ができる仕組みです。しかもナカムラ消防化学が開発した消火剤は、「フッ素フリー」で、撒いても土壤汚染にはならず、消火活動のあと消火剤を除染する必要はありません。こうした一連の事実の「発見」は、残念ながら如何に机上の空論を重ねても繋がっていかないのでしょう。

三点目に、「遠くの海外」に加え、「近くの留学生」を参加対象にしております。留学生という身近な海外ビジネス・パートナーを忘れてはいませんか？ ややもすれば、日本では留学生を単純労働力の代替として考えがちですが、それは間違い。「人財」としての留学生ははるかにスペックが高く、知識産業の担い手です。特に長崎に来る留学生は、東京

図3：長崎ブレイクスルーの2017年度9大プロジェクト

分野	テーマ	対象地域	プロジェクト名	チーム	参加企業			支援
インバウンド	ハイエンド観光	中国+α	まちなか軸ゴールデンさるくプロジェクト	A	メモリード	こんね		十八銀行 長崎経済 研究所
		中国+α	伊王島世界一プロジェクト	B	KPG	わかたむ		
		中国+α	きれいな歯をおもてなしプロジェクト	C	こんね			
アセアン	海外ビジネス構築に向けた所作	ベトナム・カンボジア	アジア人財活用プロジェクト	D	谷川建設	長崎厚生福祉団	大村セラテック	
		ベトナム	Webでベトナムを2倍楽しくするプロジェクト	E	ケービーソフト	ブレインワークス		
		タイ	消防システム輸出プロジェクト	F	ナカムラ消防科学			
インド	インド富裕層マーケットを攻略せよ	インド	SAKE文化プロジェクト	G	寿美屋貞住	シルバーピーク		
		インド	カーコーティング施術展開力プロジェクト	H	エーシーエス	シルバーピーク		
		インド	日本語教育輸出プロジェクト	I	シルバーピーク			

出典：長崎ブレイクスルー 第1回キックオフ会合資料

や大阪のような大都市にいるような日本の大手企業への就職を希望する学生とは異なり、親御さんの家業を継ぐ目的や、自らベンチャー企業を興したい、という方が多いように見受けられます。例えば、長崎企業の海外展開に当たって、タイやカンボジア、中国などの各国で「のれん分け」し、世界中に彼らを中核とした「長崎屋」ができることを期待したいと思います。

支援企業のひとつ、わかたむ社から支援いただいている「留学生研究会」ではこうした留学生を人財として活用するためのあらゆる試みを既に実証しております。例えば、「留学生NINJA」では、長崎のカステラを留学生に試食してもらい、その「味」の選好、パッケージ、販売数量、ネーミングなど、あらゆる角度から、「テスト・マーケティング」してもらいます。いくつかの手法を駆使し、その精度が高まっており、長崎に居ながらにして、世界各地の市場をテストできるというわけです。実際、森長の「半熟生カステラ」は、既にタイの首都バンコクを中心にあるサイアム・パラゴンというショッピングモールで販売され、好評を得ております。

四点目には、メンターとビジネス支援企業による重厚なビジネス支援と企業自身の気づきを得るための相互学習の機会が提供できます。支援企業のひとつコンネ社が典型的ですが、実際に海外で事業を展開したいという企業に対し、これを人財、金融、流通・物流、

コンサルなどのツールをつかって支援する企業が不可欠となるのです。これらがあって初めて海外ビジネスが成功することから、事業会社そのものだけではなく、支援企業と連携してシナジーを目指します。

また企業の学習について、「インターンシップ」と一口に言いますが、企業側でいきなり学生を迎えても、どう対応して良いか分からないという話をよくお伺いします。如何に効率的に若い学生の柔軟な発想を取り込むか。そのため、企業と学生の相互学習が不可欠なのです。

五点目として、最後に最も重要なポイントです。「長崎ブレイクスルー」は、学生実行委員という学生組織による自主運営を目指しております。最近とみに「大人」が必死で学生の活動を鼓舞する事例が多いようです。しかしそれは、「笛吹けど踊らず」という事態になりかねません。これに対し、「長崎ブレイクスルー」は、「学生による、学生のため」活動という自覚をもって、既に実行委員が駆動しております。私が、2016年から全編英語によって開講している、「NAGASAKI INNOVATION」という授業の教え子が中核となってもっています。この授業では、Make Nagasaki Great Again!を目指し、海外との連携を通じた長崎創発のイノベーションを目指す方策を研究しております。次の時代を担う、有為な大学生が、危機感と問題意識をもって闘う姿は、頼もしくもあり、

また惜しみない支援に値します。

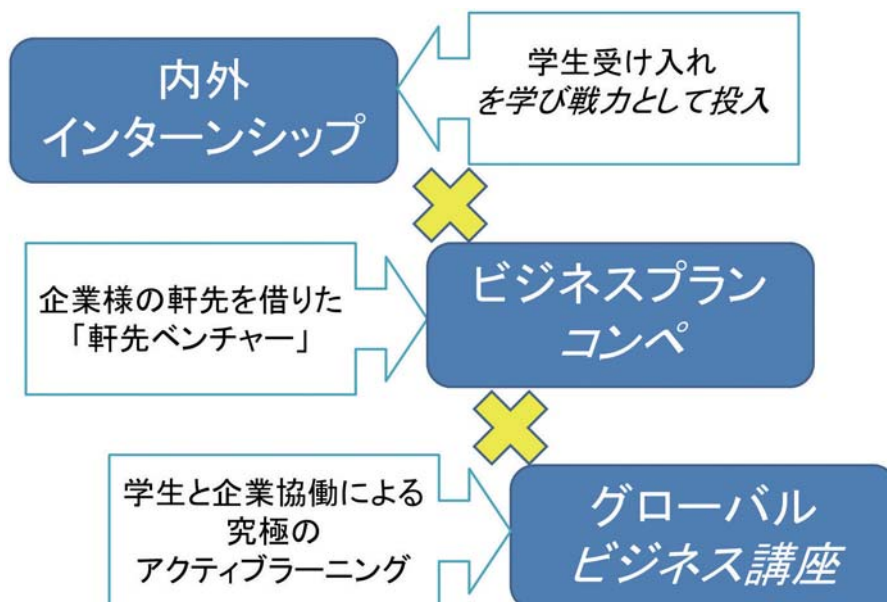
「長崎ブレークスルー」は本邦初の試みです。このため、「なんだか似たような話を聞いたことがある」といった類似の商品にご注意ください。そのひとつが、インターンシップ。「長崎ブレークスルー」では、内外ふたつのインターンシップを用意しておりますが、その内容は、新規海外事業という企画立案、戦略策定という部分です。これは通常の定型的な業務に学生を入れる発想とは大きく異なります。

また、ビジネスコンペと比較される方もいると思います。雨後の筍のように、日本中で林立している「ビジネスプランコンペ」は、残念ながら学生の思い付きという感がぬぐえません。よしんば素晴らしいアイデアがあっても、資金的支援や人的、物的サポートなど、考え出された事業が血肉化する過程を

欠いているといえるでしょう。寧ろ既存企業の「軒先」を借りたかたちのベンチャー、「軒先ベンチャー」のほうが、事業継続という観点からはるかに持続可能性が高いといえるでしょう。ここが他には無い、「長崎ブレークスルー」の特徴といえるでしょう。

最後に、「グローバル教育」との関係でも考えておく必要があります。「グローバル教育」もまた、昨今の「バズワード」のひとつですが、問題は、実践を通じて具体的に学生がグローバルスキルなり、グローバルに生きる方法論を身につけるかどうか。特に、グローバルビジネス、0から1を生む営為は、アートとサイエンスの二つの要素があると考えます。このアートの部分をいかに実践で磨くことができるか？ その意味で、実践の中で実学を学ぶ「長崎ブレークスルー」は極めて有望なグローバル教育のツールといえるでしょう。

図4：「長崎ブレークスルー」が射程とする3つの分野



出典：著者作成

う。まさに国内外を越境し、またビジネスとアカデミアの間を往還する、真のアクティブラーニング、といえるでしょう。

先ほどの、ナカムラ消防化学やわかたむ社、コネ社に加え、長崎経済と海外展開に関する大所高所からの指導を仰ぐべく十八銀行、長崎経済研究所にもご参加いただき、現在15の企業が参画しております。年間15万円の支援金を頂戴することで参加可能です。今後募集を継続して予定です。

「長崎ブレークスルー」は、参加企業にとって、どのようなメリットになるのでしょうか？ これについては、5つのポイントを指摘することができます。

まずアジアビジネスのFS（事前調査）ができる、ということです、皆さんがもし新規の海外ビジネスを立ち上げるとしたら、まずは実現可能性調査（FS）を実施するでしょう。その場合、いくらかかるとお思いますか？ 近場のタイなどでも、現地のコンサルでさえ、300万円から500万円の数字になります。日本のコンサルや国際的なコンサルファームに頼めば、さらに桁が1つ違うコストが発生するでしょう。

学生のアイデア、行動力を活用し、産官学が真に連携して海外ビジネスのスタートアップ企画立案が協業できる、ということもポイントです。企画会議として活用し、新た

なイノベーションを興すチャンスと見るべきかもしれません。イノベーションとは、これまでの発想を変える、「新たな結びつき」です。学生に、存分に知的に引っ掻き回してもらうことによって、破壊的なブレークスルー（突破口）が生まれるものと期待しております。

またアジアビジネスネットワーク構築、ビジネス拡大に寄与することは申すまでもありません。その先の長崎。長崎の将来に向けた突破口を、若い世代に託す。具体的には、学生による起業が考えられます。飽くまでそれは、長崎企業の「軒先」を借りた、「軒先ビジネス」。長崎の企業を学びやとした新しい起業が小さくてもよいのでどんどん育っていく姿。それが長崎の長期的な発展につながるでしょう。特に留学生にとっては、長崎の企業が培ったノウハウや技術を学び、長崎の企業の指導のもと、「のれん分け」という方法があります。

インターンシップの先には、長崎の企業が、自らのすばらしさを知ってもらう。もっと言えば、自分ですら気づいていない「強さ」を、長崎で学ぶ意識の高い学生が理解するところから始まるでしょう。そして、実はふるさとに、こんなに素晴らしい企業があり、海外のビジネスを通じ、「この手があったか！」と「発見」することこそ、参加する企業にとって大きなメリットになるでしょう。「長崎ブレークスルー」に参加する企業と学生が相互に交流を深め、お互いに理解し合うことで、企業

にとって新規学生の獲得や、学生にとっての「長崎」を通じた「キャリア」の実現がリアリティをもって描かれるという展望です。ふるさとを愛し、海外に飛翔する若い有為な人材との相互学習は大きな効果となるでしょう。

ここまでの話で、長崎ブレイクスルーの理念と行動要領については、理解いただけただけではないでしょうか？ 本当にこのような活動の実現性はあるのか？ — 実は先行し、7年前から福岡で、「アジアブレイクスルー」という仕組みが始まっております。この仕組みも、学生によるインターンシップを前提に、参加企業の海外事業支援を実現しており、茅乃舎のだし、で有名な久原本家の台湾での事業展開や、大口酒造の中国での販路拡大など、具体的な成功事例が生まれております。この活動を通じ、事業成功の実績だけでなく、学生の成長、就職といった部分で、大きな成果を生んでいるとのこと。これらを1年かけてじっくり研究し、そのエッセンスから学んでこの「長崎ブレイクスルー」が生まれました。その意味で、成功事例を十分に研究しているのが、「長崎ブレイクスルー」の大きな特徴といえるでしょう。

長崎の企業のみなさん、海外進出やインバウンド・ビジネスで突破口を開きたい、と思っておられる方、ぜひご一報ください。机上で百論尽くしても展望は見込めません。まずは行動にうつしてみることに。そのための最短距離として「長崎ブレイクスルー」を活用くだ

さい。学生を育てたいという方も大歓迎です。どうぞ皆さんの胸をお借りして、次世代を育てていただきたいと切に願っております。

百聞は一見に如かず！ 2017年7月9日（日）には、長崎大学文教キャンパスで、学生が参加する9つのチームが革新的な仮説を提言する中間報告会を開催する予定です。奮ってご参加ください！

その内容も含め、ご一報をいただきましたら、ぜひ「長崎ブレイクスルー」の実行委員メンバーがご説明にお伺いします。

まずはこちらに御連絡ください：

NBT実行委員会総務部門 NBT事務局

E-mail : nbt.jimukyoku@gmail.com

長崎ブレイクスループロジェクト

Nagasaki Break-Through Project (NBT)

Start : 2017.04.01

HPやSNSにて活動報告しています!!

- HP : <http://nagasaki-bt.com/>

- Facebook :

<https://www.facebook.com/nagasakiibtp/#>

- Twitter : <https://twitter.com/nagasakiibtp>